

## 5 評価方法について

「総合的な学習の時間」で、どのような評価方法を取り入れているか質問した。

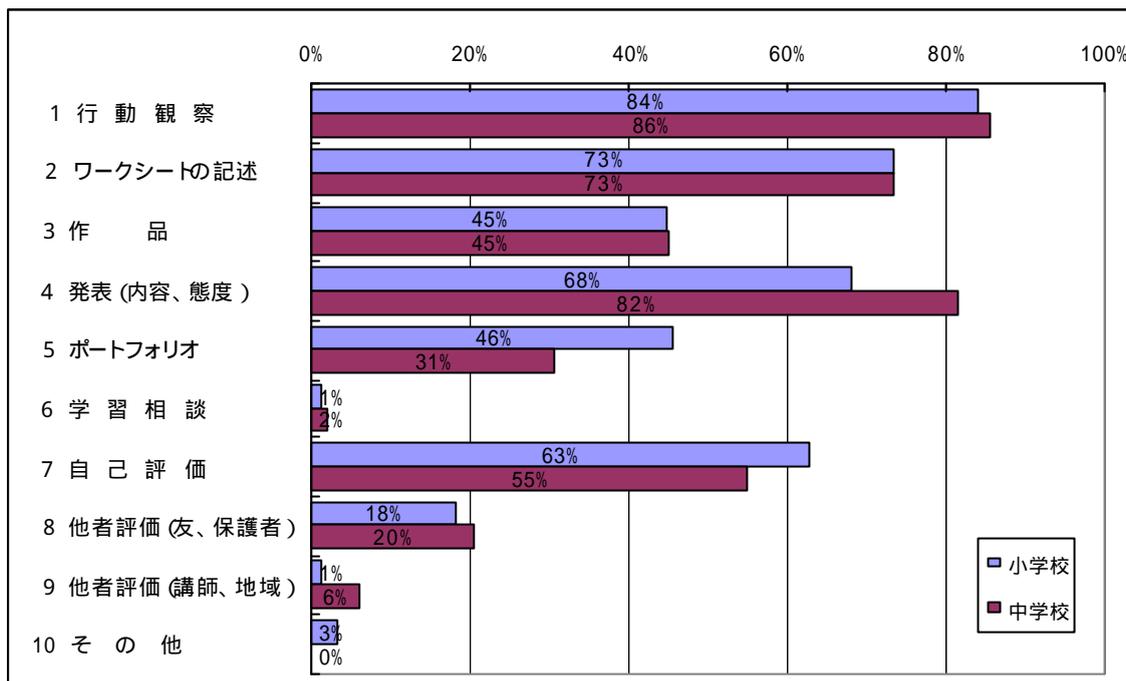


図6 「総合的な学習の時間」における評価方法(複数回答)

### (1) 結果

小・中学校とも回答の割合が高かったのは、「行動観察」(小84%、中86%)「ワークシートの記述」(小73%、中73%)「発表(内容、態度)」(小68%、中82%)「自己評価」(小63%、中55%)等の方法であった。逆に、割合が低かったのは、「学習相談」(小1%、中2%)「他者評価(外部講師、地域の人々)」(小1%、中6%)であった。

### (2) 考察

「総合的な学習の時間」における学習の成果としては、量的なものだけでなく、質的な変容や高まりが重要視されている。児童生徒が身に付けた資質・能力がどのように行動や態度となってあらわれているかしっかりと見取っていく必要があり、「行動観察」や「ワークシートの記述」、「発表」等の評価方法が多く取り入れられていることが分かる。また、児童生徒自身にも自己の変容や成長した姿に気付かせることが大切であることから、「自己評価」や「ポートフォリオ」が取り入れられている。

一方、「学習相談」の割合が低かったのは、「自己評価」や「ポートフォリオ」「ワークシート」に教師からのコメントが書かれたり、適宜、個別に指導や助言が行われているからであろうか。外部講師や地域の人々による評価がほとんど取り入れられていないことと合わせて、評価の改善、充実に向けた課題の一つと言えよう。